

# 岩手労福協

発行

(社)岩手県労働者福祉協議会  
盛岡市大沢川原2丁目2番32号  
TEL (019) 654 - 3082

発行責任者 佐々木敏男  
編集責任者 小野 務

No.138 2007年1月1日 発行



2007

迎

天峰山より岩手山を臨む

相互扶助の精神を基調に据えた安心、安全、信頼の  
社会システムの道筋を切り開いていきましょう！

新たな年へ向けて

もくじ

事業団体広告	11
労福協	7
学校生協	7
信用生協・労働福祉会館	6
全労済・ハビネス共済会	5
東北労金岩手県本部	4
平和環境センター・友愛会	3
労福協・連合岩手	2

監事	柴谷正孝	監事	吉田恵一	理事	藤井明彦	理事	三浦輝夫	理事	八幡博文	理事	高橋克公	理事	昆橋誠夫	理事	菅原義夫	理事	浦山正年	理事	来内幸治	理事	阿部治務	常務理事	小野務	副会長	軽石義則	副会長	砂金文昭	副会長	小野寺育郎	会長	佐々木敏男
----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-------	----	-------

# 2007 謹賀新年

## 年頭のあいさつ



社団法人 岩手県労働者福祉協議会

会長 佐々木 敏男

新年あけましておめでとございませう。

皆様におかれましては、ご健勝で新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年十月、五年五ヶ月に亘る小泉政権が終わり、安倍政権が誕生しました。

小泉政権の評価は格差の拡大、二極化の進展、非典型労働者の急増と低所得層の固定化、派遣や請負などに代表される働き方のルールの混乱などマイナスイメージばかりが目につき点数を付けるに値しません。

加えて、幼い命がいとも簡単

に奪われる凶悪犯罪の多発、耐震強度偽装問題、ライブドアや村上ファンド事件などビジネス

モラルの荒廃、生活保護世帯や就学援助受給世帯の急増など日本全体が「不安と不信の日本」といった様相を呈しています。

一方、小泉政権を引き継いだ安倍政権は、小泉政権以上の経済成長至上主義を標榜しており、強く豊かな企業と疲弊する家計という構図を一層、増幅すると受け止めざるを得ません。

こうした厳しい情勢のもと、新しい年を迎えました。こういいう時代だからこそ、労

働福祉事業団体および労働組合は誕生の歴史、原点に立ち返り、「共助」の精神で労働者とその家族のために何を為すべきか、何ができるのかを具体的に提起していかなければなりません。

「戦略なき組織は滅びる」とよく言われますが六つの事業団体、労金、全労済、ハピネス共済会、信用生協、労働福祉会館、学校生協が労働組合としてしっかりと手をつなぎ、確かな戦略、戦術を練り、それぞれの事業団体の特徴を生かしながら有機的連携を図って、一層の事業の充実を図って参りたいと思います。新しい年が少しでも良い年となりませう皆様方のご指導、ご協力を心からお願ひ申し上げます。年頭に当たつてのあいさつとさせていただきます。

今年もどうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。



## 「反転攻勢」強め!



連合岩手

事務局長 小野 務

新年あけましておめでとございませう。

昨年は連合運動に対し、ご理解とご支援を賜りまして深く感謝申し上げます。本年も引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

二〇〇七年がいよいよスタートしました。着実に力強く「反転攻勢」を進め、労働運動として確かな手心えをつかむことのできる転機の年にしていきたいと思ひます。

今、日本経済は、バブル崩壊後の長期不況を脱し、企業収益の向上、個人消費の回復、雇用・失業情勢の改善など全体として堅調な動きを続けています。しかし、不安定雇用の増大や若年者未就業問題など雇用の二極化・固定化が進み、地域間格差・所得・資産格差が拡大するなど、多くの局面で格差の拡大と二極化が深刻になっております。連合は格差社会の改善に向

け、これまで職場・地域が一体となった行動を展開してまいりました。私たちが直面している課題は、組織された労働者にとどまらず、まさに全ての働く人たちに共通する課題であり、全ての人々の将来に大きな影響を与える重要課題であります。

連合は、「STOP! THE 格差社会」を掲げ、運動をすすめています。その一環として、一月二十九日に連合本部の高木会長・森越会長代行・事務局長が来県し、広く社会に対して現在の格差社会の実態を訴え、具体的な政策や行動などについての理解を深めてもらうことを目的に、「市民との対話集会」を予定しています。

二〇〇七春季生活闘争においては、労働分配率を反転させ、付加価値配分構造の歪を改善し、労働者間の格差是正に向けて、果敢に挑戦しなければなりません。そして、「労

働」が大きな争点となる中で、統一地方選挙・七月の参議院選挙に総力を挙げて取り組み、連合が掲げる「労働を中心とする福祉型社会」の実現を目指していかなければなりません。

連合岩手は昨年十二月に「地域に顔の見える運動」を目指し、新たに体制の地域協議会・地区協議会をスタートさせました。一つの窓口で全ての相談が受けられる「ワンストップサービス」の体制なども整え、広く地域住民・勤労者に応える運動を展開していきたいと思えます。



## 新春雑感—妖怪談義

平和環境  
岩手県労働組合センター

議長 砂金 文昭

新年あけましておめでとう  
ございます。

各事業団体、構成団体の更なる飛躍をお祈りいたします。水木しげるの漫画『ゲゲゲの鬼太郎』や最近では押切蓮介の漫画『でろでろ』など、いつの時代も妖怪ものにとび

労働とは「人間の営み」であり、「人」を大切にしない社会は荒廃することを、社会全体の共通認識として再確認されるよう、しっかりと地に足の着いた運動を進めていかなければなりません。

多くの問題が山積していますが、今こそ、私たちの力と行動で「組合が変わる、社会を変える」そんな思いを強く持ち、明るく前向きに前進していきたいと思えます。皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。とにも、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

つく若者が多い。妖怪・幽霊・魔物にまつわる話はいくら都市文化が繁栄しようと、やはりなくならないのである。

わたしが住む一閑の鉄道の下をくぐりぬける国道にも、よく女性の幽霊が出るという噂でもちきりだった。見物に

行く人が多くなつて、最近はまだあまり出ないらしい。その場所が交通の不便解消のために立体交差して開通したのはつい最近の事である。

昭和三十年代始めのころだ。わたしの祖母は、近所で暗くなるまで遊びほうけていたわたしを迎えによく来てくれたものだ。うっそうとした杉林を抜けて帰るには不気味さが漂っていて、とても子ども一人で帰れる道ではない。今でも記憶にあるのは、その祖母がわたしの手をひきながら、辺りに「ホーツ、ホーツ」と何度も声をあげて歩いていたのである。後でわかったのだが、魔物が近づかないようにするためと聞いていた。

トイレが屋内にないその頃は、夜のトイレは一段と恐怖だった。誰かをドアの前に立たせ、しかも扉をあげ放して用を足すのである。もちろん沈黙はこわいので、会話は欠かせない。

闇に対する恐怖、底知れぬ不安。自然の不可思議さ、そして生死の神秘さ。どれをとっても解明できないものだった。科学が進歩し交通機関が発達し、闇夜が街からなくなった今、あの頃の妖怪たちはどこかに潜んでしまった。いつ襲つ

てくるかわからないという差し迫った不安は少なくなつた。困ったことに、現代人はそれをいいことに、自然や時間をわがもの顔で私物化している。こんなことなら今年も妖怪の逆襲が起こるやもしれない。いや、きっと起こるだろう。

すでに昭和の妖怪は、平成の妖怪となつて国会周辺をうろついていると聞く。よほど出没しやすくなつたのだからか。こんなとき、人間は声を

## 安心立命



岩手友愛会

会長 軽石 義則

新年あけましておめでとう  
ございます。みなさまにおかれましては、すこやかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、年末年始にあたり業務に就かれたみなさまに對しまして敬意を表します。

さて、一昨年の漢字は「愛」で、昨年の漢字は「命」とな

掛け合つて、生命財産を守らなければならぬ。安全安心を守るには、人間の謙虚なる姿勢と危険を予知する能力を身につけなければならぬ。

鉄道下の道路を、わたしは今朝も通つてきた。一度お目にかかつてみたいものだ。みなさんの幸せを心から願わずにはいられません。今年もよろしくお願いいたします。

りました。「愛」から「命」が生まれ、育まれる事があたりまえであつたはずが、嬉しいことばかりではなく、悲しい事件や事故が日常のニュースとして報道されました。日本中がいろいろの意味で注目したなかで生まれた命は、皇室に約四十年ぶりの親王「悠仁さま」のご誕生でした。身

の回りに潜む問題により絶たれた命は、いじめによる子供の自殺が社会問題化し、履修漏れの責任をとって自殺された校長先生もありました。社会のルール無視や責任放棄による奪われた命は、飲酒運転による交通事故の続発や、虐待による殺人が多発しました。また、自然災害で命を奪われた人もありました。安心できない国であったはずなのに膨らむ命の不安は、何を目的にして北朝鮮は核実験をしたのか、暮らしの中では、高齢者の医療費増大や臓器移植問題、医師不足など不安は膨らんでいくように感じます。今年も、ひとつしかない命の重みや大切さを、自分自身はもとより次世代に確実に伝える年としたいものです。

岩手県内におきましても、テレビで見ていた遠くの事件や事故であったことが、ごく身近なところで起きはじめております。一方、経済情勢は各界各層の地道な努力はされているものの、景気回復の状況は実感できるまでには至っておらず、格差の拡大をどのようにつに考え対応するのが課題であると思われる。雇用状況においてもその影響はないとは言えず、労使関係のみならず、安全や技術継承にまで及んでいるように見受けられます。

そのことは重大な労働災害を含めて増加傾向に現れており、いよいよ訪れる団塊の世代が定年退職をむかえるとき、岩手においてどのように安全と技術を確保していくかに関わらなければならぬと考えられております。これまで我慢と努力で築いたことは、得るものよりもなくしてはいけぬもの、ものを失ったほうが多かったのではないのでしょうか。

労働組合として、このようなきそ立ち止まることはできないとしても、先達の知恵を紐解きながら考えることも必要であり、社会正義に立ち寄り存在価値を示すときでも受け継いだ自由にして民主的な労働運動を、岩手友愛会としても努力を惜しまず、早期に一体的運動ができるように合意形成をはかりたいと考えております。県内における労働者の結束をはかり、健全な

労使関係の維持・向上はもとより、政治による政策制度の実現に向けた取り組みが加速されることであります。

今年も亥年です。まさに一大政治決戦に向けて「猪突猛進」することにより、混乱した社会を改善し、きつちりと次世代につなげる実践をしなければなりません。

二〇〇七年を迎え、岩手友愛会としてもみなさまと力を合わせ、生まれ育った岩手県に自信を持ち、「安心・安全・安定」した社会づくりをめざしていくために、明るく元気にわかりやすい運動を着実に推進してまいりますので、変わらぬご指導とご支援をお願いし、年頭にあたつての挨拶とさせていただきます。

謹んで新春のお喜びを申し上げます。併せて、日ごろの東北労働金庫に対しますご愛顧・ご支援に心より感謝申し上げます。

東北労働金庫となつて四年目の年を迎えます。東北六県の働く人の夢と希望を実現するために充実したサービスを提供する金庫として、また東北地域内で八番目の預金残高を持つ金融機関として、事業の堅実な発展を推進しなければならぬと考えております。



## 亥年は「無病息災」の年



東北労働金庫岩手県本部

本部長 小野寺 育郎

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

れており、働くものにとつては大変厳しい状況となつていきます。

こうした時代だからこそ、勤労者の声と力を集めてお互いを支え合う、労働福祉運動はますます重要になってきます。ろつきんは、「働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関」として、人々が喜びを持つて共生できる社会の実現に寄与することを目的としています。この目的に

一歩でも二歩でも近づけるよう、労協協の会員の皆様と手を取り合つて努力したいと考えております。

二〇〇七年は「亥年」、「亥」は「無病息災」の象徴といわれます。皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、東北労働金庫に対しますいつそのお力添えをお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

「いざなぎ景気超え」とはいいながら、個人消費は伸びず、地域経済も景気拡大にはいたらず、働くものの可処分所得も減少し、格差が拡大しているといわれています。定率減税廃止に伴う個人の増税感が広まる一方で、経済成長重視の企業減税が取りざたさ

# たすけあい、未来へつなぐ

## NEXT50



全労済岩手県本部

理事長 来内 広幸

新年明けましておめでとうございます。

日頃から全労済岩手県本部の事業推進に対し格段のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、日本経済が「いざなぎ景気」を超えて継続している状況にあるにもかかわらず、実質的な成長率は鈍化傾向であり、生活実感は依然として厳しい状況にあると思います。さらに、今年も所得税や住民税の定率減税廃止と高齢者医療費の負担増などで家計を圧迫することが明らかであり、先行き不透明感はますます強まる状況にあると思います。

このような時にこそ、五十年にわたり組合員の負託にこたえる共済事業を推進してきた全労済の果たす役割は、ま

すまず大きくなってきたと思えます。それは、組合員の可処分所得を側面から引き上げていく「生活保障設計運動」という民間生損保にはない契約者サポート事業を推進してきた実績であり、この運動を今年も強化しながら「組合員の全労済」としての社会的責任を果たしていきたいと思えます。

そして、「たすけあい、未

### 厳しい環境下、気持ち新たに



新年明けましておめでとうございます。

昨年中はハピネス共済会の

来へつなぐNEXT50」となる今年の全労済五十周年における共済事業の推進にあたっては、「こくみん共済」をはじめとする各種共済の二〇〇六年度純増目標の確実な達成にむけ努力を傾注していきたいと思えます。

また、岩手労済の施設事業である「南部富士見ハイツ」の利用促進にあたっては、協力団体のお力添えを頂きながら地産地消を基本に利用者のニーズにあつた企画商品を提供しながら、皆様のご利用を心からお待ち申し上げます。

最後に二〇〇七年が協力団体の皆様にとって大きく躍進する一年となりますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

ハピネス共済会

財団法人岩手県民共済会

理事長 八重樫 東伍

様々な取り組みに対し、ご支援とご協力を頂き、心から感謝申し上げます。

また、昨年七月二七日に開催致しました第三十六回評議員会におきましては、厳しい環境下ではありましたが、健全な決算状況（二〇〇六年五月三十一日決算）として報告できました。これもひとえに皆様のご支援・ご協力の賜物と役員一同肝に銘じております。

しかしながら、昨年四月から六月にかけて成立した「公益法人改革三法」並びに「改正保険業法」は、共済が主たる事業である、弊会のような岩手県民の皆様のために保障を提供している小規模共済事業者にとりましては大変厳しい改正内容となっております、会員・ご利用者の皆様にご迷惑をおかけしないような対策を講じていくことが喫緊の課題と位置づけ、新年を迎えるにあたり役員一同、気持ちを新たにしております。

施設事業におきましては、サンハピネス（岩手県民共済会館）が、大規模改修後、自治労岩手県本部様ご入居の事務所及び賃貸住居とも満室の状態を続けております。山王ハイツは若干テナントの空室

があります。日常生活に欠かせない多彩な業種の入居するひとつの「街」として、一階にはいわて生協様をはじめ、手打ちそば・ラーメンの飲食店舗、理容店、コインランドリー、ET関連業者、トランクルームなどが営業、二階には（財）盛岡市勤労者福祉サービスセンター様、株式会社協同様などの関連事業所にご入居いただいております。

また、直営のホテル山王は週末割引や会員優待、各種サービスの充実を進め、安定した稼働率を維持しており、関連会社（有）きょうさいライフも、保険代理店を主たる業務に、ビル及びマンション経営など、事業の幅を広げております。

最後に厳しい環境下ではありますが、本年も役員一丸となり、奮闘する決意を申し述べ新年のご挨拶とさせていただきます。



## 消費者が安心できる 暮らしの支援に向けて



岩手県消費者信用生活協同組合

理事長 佐藤 晴久

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃から当生協に對しまして格別の御高配を賜り誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

昨年は、当生協の事業運営に關し様々な問題が提起された中で、皆様からの温かいお導きと力強いお力添えにより、七月の総代会を契機に新しい体制の下で、山積する課題に役員一丸となつて事業に取り組んで参りました。

当生協の根幹事業である消費者信用の分野においては、法改正や重要な判決が相次ぎ、消費者保護の流れが大きく加速された一年でありました。とりわけ最高裁の判決を受けて、利息制限法と出資法の上限金利の乖離いわゆるグレーゾーンによつて発生した過払いの利息返還が相次いだことから、貸金業規制法の改正により高金利が見直しされることになり、高金利・過剰貸付・

苛酷な取立てという構造的問題の解消と多重債務問題解決に大きな弾みがつくものと期待されております。

当生協に寄せられる新規相談件数も一昨年来五、〇〇〇件を超える状況が続いており、法改正や判決を受けて債務整理方法が多様化したことにより、およそ六七%の方が何らかの方法で解決しております。当生協の相談状況分析では、生活費補填を借入動機とするものが全体の三二%、年収二五〇万円以下が全体の約六五%、パートアルバイト・無職・

年金生活者が全体の三〇%という特徴が見られ、多重債務のほとんどは依然として生活苦型という傾向が続いております。景気回復が伝えられているにもかかわらず、これからの少子高齢社会において地域・所得・雇用・教育などで格差が拡大している現状を考えると、多重債務は決して他人事ではないという認識を新たにせざるを得ません。

当生協が平成元年から全国に例を見ないモデルとしてスタートした「消費者救済資金貸付制度」（市町村が金融機関に預託し、生協が相談と融資を担当し、弁護士が債務整理をする仕組み）は、岩手県内の三三市町村が制度を実施し、多重債務で生活が立ち行かなくなつた多くの方々の生活再生を支援するという役割を果たして参りました。

今後は、債務整理が終わつた後の生活再建に対する支援などがより重要になることから、組合員の相互扶助という生協の機能を生かしながら、関係機関等との連携を強化し、継続的な暮らしの支援に向け、役員一丸となつて取り組みを強化したいと考えております。

今年も皆様におかれましては健やかな年でありますよう御祈念申し上げますとともに、尚一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。新年の御挨拶といたします。

## 心の通う集いの広場



財団法人 岩手労働福祉会館

理事長 砂金 文昭

内会団体等広く県民にご愛顧をいただいております。

関係所管庁のご指導のもと、事業を通じて日々多くの方々に学ぶ機会に恵まれ感謝に堪えません。

私も、団体様、個人様向けの季節毎のご宴会プランを提供するとともに、慶弔から一般会議まで、人が集う最適の場面を演出できるよう努力し、皆様との相互交流の中で事業の発展が醸成できるよう願いつつ、日々の業務に携

わっております。売れ筋の商品を仕入れて売る、流行に乗って顧客のニーズを引きだす、目論見が当たれば、商売として健全です。

収益事業を推進するにあたって、このことは経営の論理として大切なことです。しかし、今まで多くのお客様に学んだ大切なことの一つに、事業を運営する当事者である私どもが必要とされるのは、お客様の欲しいものを提案し、ニーズを発生させることに加えて、それぞれの目的に瞬時に対応できる柔軟性が、サービスの本質としてより重要であると考えております。

更には、快適な居住空間からあらゆる環境維持はもちろんのこと、安全且つ安心なインフラ整備はもとより、個人・団体問わず、「コミュニケーション ネットワークの一員として、ヒューマンビジネスに徹すること」と認識しております。

これまで、多くの諸先輩が築きあげた皆様の会館は、多方面からの提言を謙虚に受けとめながら、明日からも果敢に挑戦し続けます。皆様にとりまして、この一年が穏やかで多幸でありますようご祈念いたしますとともに、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまと共に

平和とくらしを守る運動を



専務理事 高橋 克公

岩手県学校生活協同組合

新年、明けましておめでと  
うございます。

岩手県学校生活協同組合は  
小中学校の教職員や退職教職  
員を中心に、様々な一般職  
場の方々にも加入していただ  
いている生協です。安全安心な  
食品を中心とする共同購入や  
ガソリン・灯油事業、組合員証  
によるカード供給、各種共済  
保険など多くの事業に取り組  
みご利用いただいております。  
さて昨年末、国会において  
教育基本法改正案が可決され  
ました。子どもたちや学校で  
おきている問題は教育基本法  
によるものではなく、教育行  
政がすすめる施策にこそ原因  
があり、法律の改正がこれら  
の問題解決にはなりません。む  
しろ子どもたちや教職員の競  
争意識をかき立て、問題が一  
層悪化していくという懸念を  
感じません。

時、同じくして防衛庁省

昇格法案も可決され、次期国  
会では国民投票法案の上程が  
予定されるなど、憲法改正へ  
の外堀が着々と埋められ、わ  
たしたちが平和で安心してく  
らせる社会が脅かされてきて  
います。

学校生協では、安心してく  
らせる社会は「平和」が何よ  
り大切と考え取り組んでいま  
した。このような状況だから  
こそ、今後も組合員とともに  
平和について学び、考え、行  
動していきたいと考えていま  
す。同時に、命の源である  
「食の安全」や、それをささ  
える農林水産業を大切にす  
る取り組み、負担が増す年金・  
介護・医療や消費者問題など  
「くらしの安全」といった運  
動も事業とともにすすめてま  
いります。  
ぜひ多くの皆さんにご加入  
いただき、ご利用いただくこ  
とに、平和とくらしを守る  
運動をとに進めて参りま  
しょう。

第18回 岩手県勤労者 野球大会

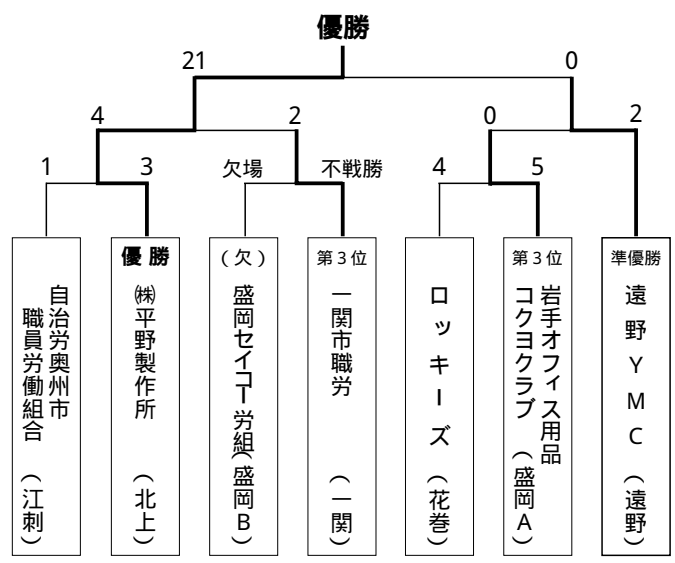
岩手県知事杯

平野製作所初優勝

- 優勝 平野製作所 (北上地区)
- 準優勝 遠野 Y M C (遠野地区)
- 第三位 コクヨクラブ (盛岡地区)
- 第三位 一関市職労 (一関地区)

第18回岩手県勤労者野球大会  
が、10月1日(日)に雫石町の  
鶯宿グラウンドで開催されま  
した。  
大会には県内地区予選を勝ち  
抜いた6チームが参加し、午前  
8時30分試合開始。終日熱戦が  
繰り広げられました。

決勝戦は、北上地区代表の(株)  
平野製作所チームが遠野地区代  
表の遠野 Y M C チームを21対0  
と予想外の大差で破り、大会初  
優勝を飾りました。北上地区の  
優勝は、昨年までの永愛友クラ  
ブチームの3連覇から引き続い  
ての4年連続となりました。



チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
遠野 Y M C (遠野)	0	0	0	0	0	0	0	0
(株)平野製作所 (北上)	0	0	7	5	5	4		21



- 個人賞
- 最優秀選手賞 大和田成利 (平野製作所)
  - 殊勲賞 照井 章弘 (平野製作所)
  - 敢闘賞 前川 博仁 (遠野 Y M C)



入賞者と作品名

岩手県知事賞

絵画部門	辻 齊 一 (旧道の古民家)
写真部門	遠 藤 政 美 (巡る季節)
書道部門	高 橋 恵 子(白萩) (高青邱詩)

入 賞 者

〔絵画部門〕

優 秀 賞	佐々木 君 江 (曙)
奨 励 賞	田 中 京 子 (大輪の舞)
奨 励 賞	多 田 勇 子 (春の息吹)
佳 作	夏 井 ふ み (数十万年の時を刻みて)
佳 作	高 橋 ツネ子 (夕暮れ)
佳 作	佐々木 八 重 (樹幹)

〔写真部門〕

優 秀 賞	澤 瀬 清 巳 (泳げたヨ！)
奨 励 賞	槻 田 久 志 (晩秋の炭焼き)
奨 励 賞	佐々木 勝 次 (天までとどけ)
佳 作	齋 藤 正 志 (向寒の木躰柿)
佳 作	高 橋 孝 美 (北の大地の中で)
佳 作	及 川 卓 郎 (秋の庭園)

〔書道部門〕

優 秀 賞	蒲 沢 弘 子(弘華) (高青邱詩)
奨 励 賞	古 舘 武 彦(雪林) (元好問の詩)
奨 励 賞	千 葉 静 男(晴嵐) (孤掌難鳴)
佳 作	吉 田 貞 子(光穂) (興福寺断碑)
佳 作	佐 藤 武 之(静堂) (莫忘想)
佳 作	石 村 廣 志 (後撰和歌集)

第25回

岩手県勤労者美術展

第10回 親子ふれあい写真展

—岩手教育会館で開催—

12月13日(水)から16日(土)までの4日間、岩手教育会館2階特設会場において開催いたしました。

作品出展は、絵画42点、写真63点、書道13点、切り絵2点の合計120点で、期間中は約200名ほどの方々が鑑賞に訪れました。

作品は、どの部門も秀作揃いで審査員を悩ませましたが、厳正なる審査の結果、左記の方々が入賞いたしました。

表彰式は、16日(土)正午から展示会場で行われ、岩手県知事賞は岩手県商工労働観光部労政能力開発課の伊藤昇太郎総括課長から、また、労福協の佐々木敏男会長からは、各部門優秀賞、奨励賞、佳作について、それぞれ賞状と副賞が授与されました。

表彰後、審査員の先生方から、部門別の総評と入賞作品個々のご講評をいただき終了いたしました。

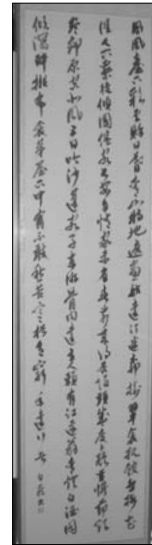
なお、次回の第26回美術展は、12月20日～23日マリオス展示ホールにて開催予定です。たくさんのご出展お待ちしております。

< 審 査 員 >

絵画	米沢とくや	現展会員 岩手芸術祭洋画部門常任理事
写真	柏原 悌一	岩手県写真連盟会長
書道	小林 大象	岩手書道協会顧問



表 彰 式



書道 知事賞受賞作品



写真 知事賞受賞作品

絵画 知事賞受賞作品





# 税務研修会

労働組合税務サポートの一環として九月一日(金)に税務研修会を若手労働福祉会館において開催しました。この研修会は、組合の適切な会計事務処理を目指し実施しているものです。

今回は県内各地より二五名が参加し、秋山信勝税理士を講師に受講しました。受講者は熱心に耳を傾けながらメモをとっていました。終了後には、個別相談にも応じました。



# 二〇〇六年度 退職準備サポート研修会

退職後の生活設計や年金・社会保険等について学んでいたが、退職後の生活に少しでも役立っていたらこうという趣旨で、退職準備サポート研修会を県内四会場で開催しました。

十一月十九日(土) 宮古会場  
十一月二十五日(土) 北上会場  
十一月二十六日(日) 花巻会場  
十二月二日(土) 盛岡会場  
講師は、若手社会保険事務局並びに各事業団体(労金、全労済、ハピネス共済会)の方々に

お願いし、年金概要、退職後の社会保険、資金運用、共済などについてお話をいただきました。さらに、県社会福祉協議会の菅原進氏にもご講演と退職後を有意義に過ごす為のご助言をいただきました。また、(社)若手県

経営者協会、若手県地域労使就職支援機構にもご後援いただき、高齢雇用継続給付金制度についてもご紹介いただきました。今年度は、延べで二二〇名程の参加者でした。

## 第十七回労福協・連合会長杯

### ゴルフコンペ開催

労福協会員、関係団体の交流と親睦を目的にしたゴルフコンペを、十月二十八日(土)に盛岡南カントリークラブで開催しました。

コンペには、三十四名が参加して腕を競い合いました。



#### 【研修内容】

年金制度の概要

若手社会保険事務局

退職後の社会保険

若手社会保険事務局

退職後の労金利用について

東北労金若手県本部

退職後の保障設計について

全労済若手県本部

退職後の医療設計について

ハピネス共済会

「地域での自分のあり方」

若手県社会福祉協議会

支援機構の活動について

若手県地域労使就職支援機構



## 家庭介護セミナー



「家庭での介護の基本を学んでいただく為、新たな事業として「家庭介護セミナー」を盛岡・北上の二地区で開催しました。講師は、二チイ学館より派遣していただき、高齢者の理解と介護の基本姿勢、介護保険の基礎知識等を学びました。また、安全で安楽な基本介護技術として、車いすやベッド等を使用するための簡単な介護基本実技も行いました。



### ホームページのご案内

岩手労福協では、ホームページを開いたしております。  
イベント、活動報告、活動予定等を掲載しております。  
是非ご活用下さい。

ホームページ <http://iwate.rofuku.net>

二〇〇七年  
新春交賀会開催  
2007年1月26日(金)  
18時  
岩手労働福祉会館5F  
「いしわり」

労福協から  
のお知らせ

## 労福協文化講演会

とき **2007年2月3日** (土)  
午後14時00分～15時30分

ところ **ホテルニューカーリーナ「マール」**

演  
題

「21世紀型福祉社会の構築  
— 少子高齢化に  
どう政策対応するか」

講  
師



おかざわ のりお  
**岡沢 憲芙**  
早稲田大学社会科学総合学院・教授

**入場無料**

**先着200名様** (整理券必要)  
(定数になり次第締め切らせていただきます。)

※お問い合わせは、(社) 岩手労福協 ☎ 019-654-3082 へ